

事業報告書

令和元年度

(第12期事業年度)

自 平成31年4月1日

至 令和2年3月31日

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構

I 地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構の概要

1 設立目的

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構は、地方独立行政法人法に基づき、医療の提供、医療に関する調査及び研究等を行うことにより、庄内地域等の医療政策として求められる高度専門医療を提供し、及び当該地域における医療水準の向上を図り、もって住民の健康の維持及び増進に寄与することを目的とする。

2 事業内容

- (1) 医療の提供に関すること。
- (2) 医療に関する調査及び研究に関すること。
- (3) 医療に関する技術者の研修に関すること。
- (4) 医療に関する地域への支援に関すること。
- (5) 災害時における医療救護に関すること。
- (6) 前各号に掲げる業務に附帯する業務に関すること。

3 沿革

平成 20 年 4 月 地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構設立

- ・山形県立日本海病院を日本海総合病院として開院
- ・酒田市立酒田病院を日本海総合病院酒田医療センターとして開院

平成 30 年 4 月 酒田市立八幡病院の統合等

- ・酒田市立八幡病院等を統合、日本海八幡クリニック、升田診療所、青沢診療所、松山診療所、地見興屋診療所及び飛島診療所を運営開始
- ・酒田医療センターを日本海酒田リハビリテーション病院に改名

4 設立根拠法

地方独立行政法人法（平成 15 年法律第 118 号）

5 所在地（平成 31 年 4 月 1 日現在）

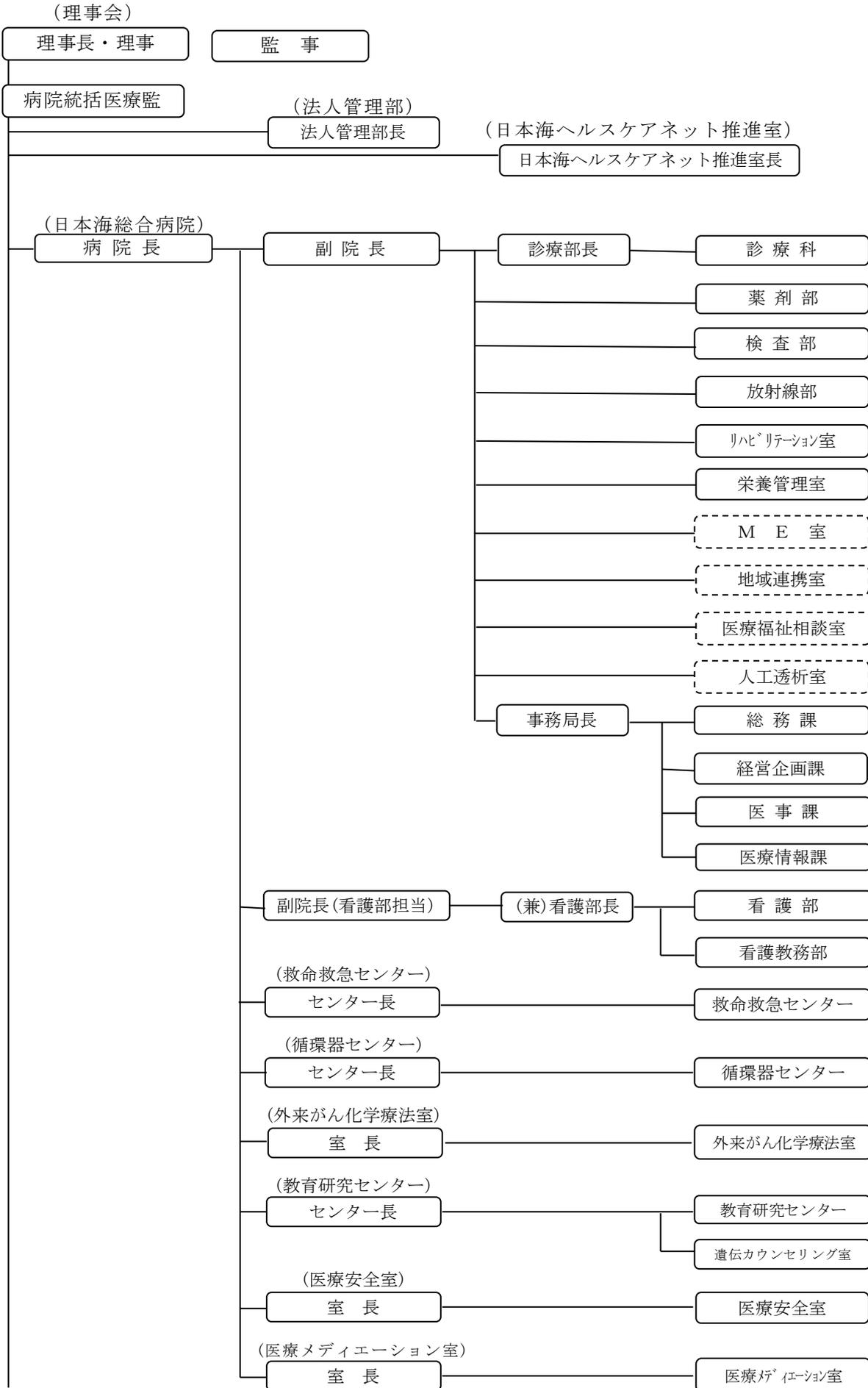
- (1) 法人の主たる事務所 酒田市あきほ町 30 番地
- (2) 設置、運営する病院及び診療所

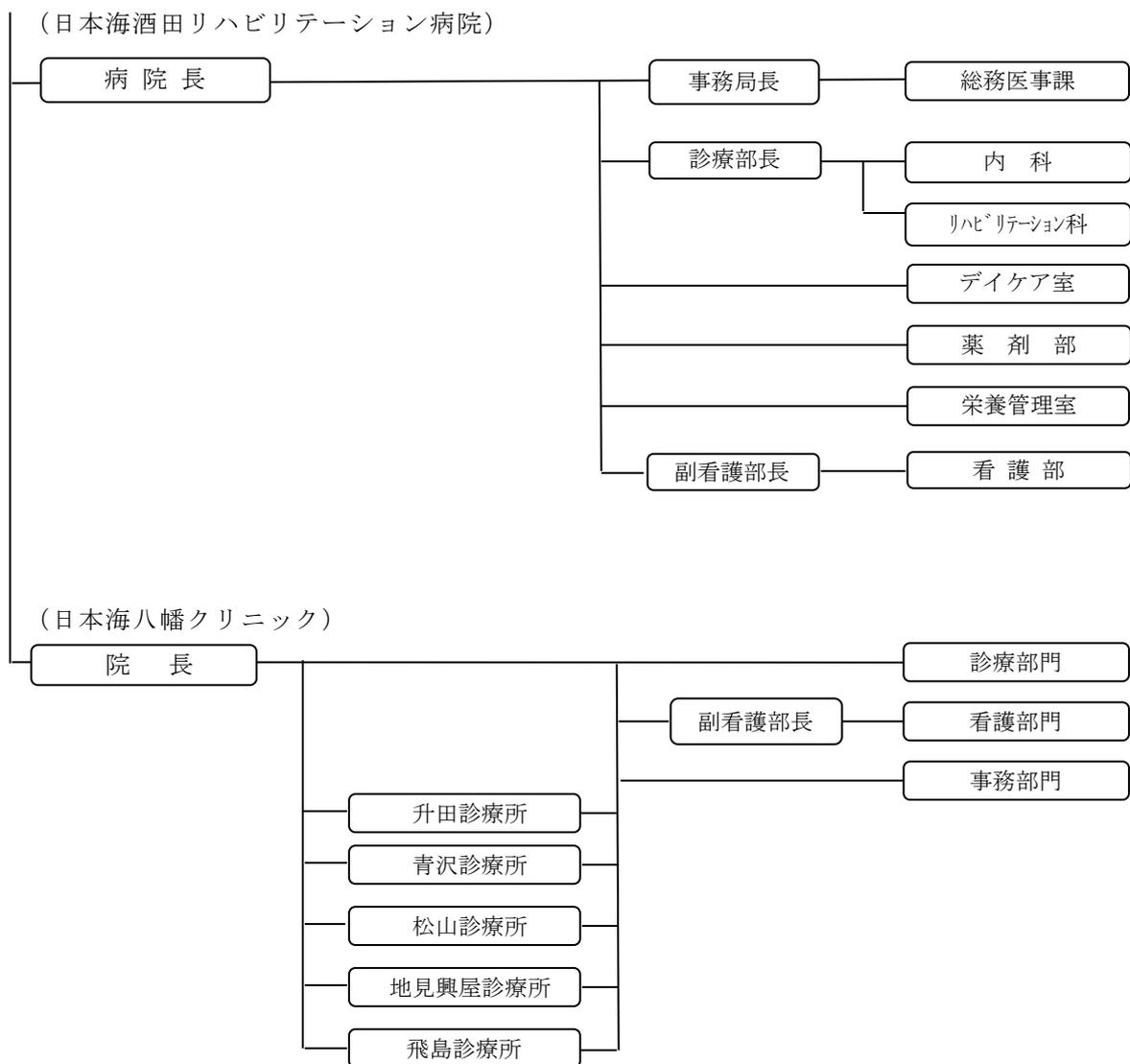
日本海総合病院	酒田市あきほ町 30 番地
日本海酒田リハビリテーション病院	酒田市千石町二丁目 3 番 20 号
日本海八幡クリニック	酒田市小泉字前田 37 番地
升田診療所	酒田市升田字東向 16 番地
青沢診療所	酒田市北青沢字家の前 280 番地
松山診療所	酒田市字西田 8 番地の 1
地見興屋診療所	酒田市地見興屋字前割 9 番地の 1
飛島診療所	酒田市飛島字勝浦甲 66 番地

6 役員（平成31年4月1日現在）

役 職	氏 名	任 期	経 歴	備 考
理事長	栗谷 義樹	平成28年4月1日 ～ 令和2年3月31日	平成20年4月 日本海総合病院、酒田医療センタ ー病院長 平成28年4月 現職	病院統括医療監
理 事	島貫 隆夫	平成30年4月1日 ～ 令和2年3月31日	平成26年4月 日本海総合病院院長代理 平成28年4月 現職	日本海総合病院 病院長
理 事	鈴木 晃	平成30年4月1日 ～ 令和2年3月31日	平成22年4月 日本海総合病院診療部長 平成26年4月 現職	日本海酒田リハ ビリテーション 病院 病院長
理 事	内村 文昭	平成30年4月1日 ～ 令和2年3月31日	平成22年4月 日本海総合病院診療部長 平成26年4月 現職	日本海総合病院 副院長
理 事	齊藤 宗一	平成30年4月1日 ～ 令和2年3月31日	平成22年4月 日本海総合病院診療部長 平成26年4月 現職	日本海総合病院 副院長
理 事	柿崎 弘	平成31年4月1日 ～ 令和2年3月31日	平成22年4月 日本海総合病院診療部長 平成31年4月 現職	日本海総合病院 副院長
理 事	中村 美穂	平成30年4月1日 ～ 令和2年3月31日	平成27年4月 日本海総合病院副看護部長 平成30年4月 現職	日本海総合病院 副院長 (看護部長)
理 事	松本 宏	平成31年4月1日 ～ 令和2年3月31日	平成30年4月 山形県庄内総合支庁総務企画部 総務課長 平成31年4月 現職	法人管理部長
監 事	齋藤 俊勝	平成30年4月1日 ～ 令和元年度につい ての財務諸表の承 認の日	昭和48年6月 公認会計士齋藤俊勝事務所 代表取締役 平成20年4月 現職	公認会計士
監 事	加藤 栄	平成30年4月1日 ～ 令和元年度につい ての財務諸表の承 認の日	平成24年8月 山形海区漁業調整委員会 会長 平成20年4月 現職	弁護士

7 組織（平成 31 年 4 月 1 日現在）





8 資本金の状況（令和2年3月31日現在）

	平成30年度 (平成31年3月31日)	令和元年度 (令和2年3月31日)	増減
資本金合計	18,797,310,029円	19,624,389,029円	827,079,000円
山形県出資金	10,926,926,307円	11,527,033,307円	600,107,000円
酒田市出資金	7,870,383,722円	8,097,355,722円	226,972,000円

9 常勤職員の状況（令和2年3月31日現在）

職種	病院	日本海総合病院			日本海酒田リハビリテーション病院			診療所		
		H30	H31	増減	H30	H31	増減	H30	H31	増減
医師・歯科医師	職員数	152	152	0	4	3	-1	2	2	0
	平均年齢	39.7	39.7	0	55.5	62	6.5	48.0	48.5	0.5
医療技術員	職員数	160	161	1	46	49	3	1	1	0
	平均年齢	38.0	38.4	0.4	30.6	31.5	0.9	31.0	32.1	1.1

看護・介護職員	職員数	584	593	9	54	53	-1	9	8	-1
	平均年齢	39.1	39	-0.1	45.6	46.6	1	53.9	54.4	0.5
事務職員	職員数	44	46	2	4	4	0	3	2	-1
	平均年齢	40.4	39.7	-0.7	48.3	49.3	1	49.7	50.1	0.4
スタッフ職員	職員数	36	34	-2	5	5	0	0	0	0
	平均年齢	46.0	47.1	1.1	48.0	49.1	1.1	0	—	—
計	職員数	976	985	9	113	114	1	15	13	-2
	平均年齢	39.4	39.3	-0.1	40.1	40.7	0.6	50.7	51.1	0.4
法人職員	職員数	971	981	10	111	112	1	11	10	-1
	平均年齢	39.3	39.3	0	40.0	40.6	0.6	52.8	53.3	0.5
県派遣職員	職員数	4	3	-1	0	0	0	0	0	0
	平均年齢	55.3	54.8	-0.5	—	—	—	—	—	—
市派遣職員	職員数	1	1	0	2	2	0	4	3	-1
	平均年齢	57	58	1	43.0	44.1	1.1	45.0	44.1	-0.9

職 種		病 院			法人計		
		H30	H31	増減			
医師・歯科医師	職員数	158	157	-1			
	平均年齢	40.2	40.3	0.1			
医療技術員	職員数	207	210	3			
	平均年齢	36.3	36.7	0.4			
看護・介護職員	職員数	647	654	7			
	平均年齢	39.9	39.8	-0.1			
事務職員	職員数	51	52	1			
	平均年齢	41.6	40.8	-0.8			
スタッフ職員	職員数	41	39	-2			
	平均年齢	46.2	47.4	1.2			
計	職員数	1,104	1,112	8			
	平均年齢	39.6	39.6	0			
法人職員	職員数	1093	1103	10			
	平均年齢	39.5	39.5	0			
県派遣職員	職員数	4	3	-1			
	平均年齢	55.3	54.8	-0.5			
市派遣職員	職員数	7	6	-1			
	平均年齢	46.1	46.4	0.3			

Ⅱ 令和元年度の財務情報

1 財務諸表の要約

(1) 貸借対照表

(百万円)

資産の部	金額	負債の部	金額
固定資産	31,382	固定負債	15,108
有形固定資産	21,613	資産見返負債	70
無形固定資産	674	長期借入金	7,147
投資その他資産	9,095	移行前地方債償還債務	1,487
流動資産	13,735	長期寄付金債務	7
現金及び預金	6,387	引当金	6,397
有価証券	3,800	流動負債	4,208
未収入金	3,445	一年内返済予定長期借入金	980
たな卸資産	84	一年内返済予定移行前地方債償還債務	656
その他	19	未払金及び未払費用	1,891
		預り金	67
		引当金	614
		負債合計	19,316
		純資産の部	金額
		資本金	19,624
		資本剰余金	3,486
		利益剰余金	2,690
		純資産合計	25,801
資産合計	45,117	負債純資産合計	45,117

※計数はそれぞれ四捨五入によっているため、端数において合計とは一致しないものがある。

(2) 損益計算書

(百万円)

科目	金額
営業収益	21,504
営業費用	21,038
営業外収益	1,196
営業外費用	1,172
経常利益	490
臨時利益	18
臨時損失	69
当期純利益	439
目的積立金取崩額	113
当期総利益	552

※計数はそれぞれ四捨五入によっているため、端数において合計とは一致しないものがある。

(3) キャッシュ・フロー計算書 (百万円)

科 目	金 額
I 業務活動によるキャッシュ・フロー	2,103
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,532
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	728
IV 資金増加額	△ 701
V 資金期首残高	6,588
VI 資金期末残高	5,887

※計数はそれぞれ四捨五入によっているため、端数において合計とは一致しないものがある。

(4) 行政サービスコスト計算書 (百万円)

科 目	金 額
I 業務費用	1,231
損益計算書上の費用	22,279
自己収入等 (控除)	△ 21,048
II 損益外減価償却相当額	19
III 機会費用	△ 22
IV 行政サービスコスト	1,228

※計数はそれぞれ四捨五入によっているため、端数において合計とは一致しないものがある。

2 財務諸表の概要

主要な財務データの前年度比較・分析 (百万円)

区 分	平成 30 年度	令和元年度	増 減
当期総利益	744	552	△ 192
資 産	45,046	45,117	71
負 債	20,493	19,316	△ 1,177
業務活動によるキャッシュ・フロー	2,769	2,103	△ 666
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 4,087	△ 3,532	555
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,333	728	△ 605

(当期総利益)

高額がん治療薬処方や減価償却費の増加、消費税増税の影響などにより、総収益 227 億 18 百万円に対し総費用 222 億 79 百万円で当期純利益は 4 億 39 百万円となった。前中期目標期間繰越積立金から 1 億 13 百万円取崩し当期総利益は 5 億 52 百万円となり、前年比で 1 億 92 百万円減少した。

(資産)

令和元年度末時点の資産合計は、前年比で 71 百万円増加した。これは、現金預金などの流動資産が 8 億 18 百万円減、ソフトウェアなどの固定資産が 8 億 89 百万円増となったことが主な要因である。

(負債)

令和元年度末時点の負債合計は、前年比で11億77百万円減少した。これは、未払金などの流動負債が10億67百万円減、移行前地方債償還債務などの固定負債が1億10百万円減となったことが主な要因である。

(業務活動によるキャッシュ・フロー)

令和元年度の業務活動によるキャッシュ・フローは、前年比で6億66百万円の収入減となった。これは、前年度と比較して原材料等の購入による支出が5億84百万円増となったことが主な要因である。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

令和元年度の投資活動によるキャッシュ・フローは、前年比で5億55百万円の収入増となった。これは、前年度と比較して有価証券の取得による支出が82億68百万円減、有価証券の売却による収入が44億円減、固定資産の取得による支出が16億21百万円増となったことが主な要因である。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

令和元年度の財務活動によるキャッシュ・フローは、前年比で6億5百万円の収入減となった。これは、前年度と比較して金銭出資の受入による収入が8億78百万円減となったことが主な要因である。

3 重要な施設等の整備等の状況

- ・Ⅲ－第1－2－(1)イ (16 ページ)
- ・Ⅲ－第7－3 (34 ページ) 参照

4 予算及び決算の概要

- ・Ⅲ－第3－1 (29 ページ) 参照

5 経費の削減及び効率化に関する目標及びその達成状況

- ・Ⅲ－第2－3 (2) (28 ページ) 参照

Ⅲ 令和元年度の事業概要

日本海総合病院、日本海酒田リハビリテーション病院及び日本海八幡クリニック等診療所は、将来にわたり持続可能な経営に向けて努力するとともに、「安心、信頼、高度な医療提供」及び「保健、医療、福祉の地域連携」の基本理念に基づいた医療を提供するため、以下のような取組みを行った。

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 病床機能の分化・連携

(1) 日本海総合病院の機能

日本海総合病院では、これまで休床としていた病床を廃止し許可病床数を630床とした。廃止した病床については、患者の負担軽減及び利便性につながるよう「日帰り手術センター」として整備し運用を開始した。また、地域医療連携推進法人日本海ヘルスケアネットの参加法人である本間病院に回復期病床として病床融通(4床)を行い、地域医療構想の推進に努めた。

【日本海総合病院の機能】

項目	概要										
許可病床数	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">一般病床</td> <td style="text-align: right;">626床</td> </tr> <tr> <td>（うち、救命救急センター</td> <td style="text-align: right;">24床）</td> </tr> <tr> <td>感染症病床</td> <td style="text-align: right;">4床</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="border-top: 1px solid black; text-align: center;">合 計</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: right;">630床</td> </tr> </table>	一般病床	626床	（うち、救命救急センター	24床）	感染症病床	4床	合 計			630床
一般病床	626床										
（うち、救命救急センター	24床）										
感染症病床	4床										
合 計											
	630床										
標榜科 (27診療科)	内科、循環器内科、消化器内科、内視鏡内科、精神科、神経内科、小児科、緩和ケア内科、外科、乳腺外科、小児外科、整形外科、形成外科、リハビリテーション科、脳神経外科、心臓血管外科、呼吸器外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、放射線科、歯科口腔外科、麻酔科、救急科、病理診断科										
診療機能等	<ul style="list-style-type: none"> ・救命救急センター（ICU、HCU） ・PETセンター ・外来化学療法室 ・LDR室（陣痛・分娩・回復室） ・未熟児室 ・認知症疾患医療センター ・特殊診察室及び感染症室（陰圧・陽圧室） ・人工透析室 ・ハイブリッド手術室 ・地域医療支援病院 ・地域がん診療連携拠点病院 ・災害拠点病院 ・へき地医療拠点病院 ・臨床研修病院 <p style="text-align: right;">など</p>										

(2) 日本海酒田リハビリテーション病院の機能

回復期医療及び慢性期医療を適切に提供し、新たに訪問リハビリテーションの提供を開始した。

【日本海酒田リハビリテーション病院の機能】

項目	概要
許可病床数	医療療養型療養病床 35床 回復期リハビリテーション病床 79床 <hr/> 合 計 114床
標榜科 (2診療科)	内科、リハビリテーション科
診療機能等	・回復期リハビリテーション ・通所、訪問リハビリテーション ・在宅重症難病患者一時入院機能 ・機能訓練室 ・デイケア室 ・臨床研修病院 など

(3) 日本海八幡クリニック等診療所の機能

日本海八幡クリニックでは、平日延長診療、土曜診療及び訪問診療の実施、並びに、訪問看護ステーションの指定を受け運営を行った。

飛島診療所は、日本海総合病院の医師による出張診療や遠隔診療を行った。

【日本海八幡クリニック】

項目	概要
標榜科（4診療科）	内科、外科、整形外科、リハビリテーション科
診療機能等	・運動器・呼吸器・脳血管疾患等リハビリテーション ・訪問診療、訪問看護（介護保険事業を含む） ・飛島診療所の遠隔診療

升田診療所

項目	概要
標榜科	内科

青沢診療所

項目	概要
標榜科	内科

松山診療所

項目	概要
標榜科（2診療科）	内科、外科
診療機能等	・訪問診療

地見興屋診療所

項目	概要
標榜科（2診療科）	内科、外科

飛島診療所

項目	概要
標榜科（2診療科）	内科、外科

2 高度専門医療・回復期医療の提供及び医療水準の向上

(1) 高度専門医療・回復期医療等の充実・強化

ア 診療体制の充実

(ア) 救急医療(日本海総合病院)

- a 庄内二次医療圏で唯一の救命救急センターとして、24時間365日、救急医療の提供に努めている。

【実績】救命救急センター延べ患者数

平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
23,619 名	23,775 名	23,164 名	22,964 名

- b 酒田地区広域行政組合消防本部及び鶴岡市消防本部との連携強化のため、合同で救急医療講演会を開催し、救急医療の充実に努めた。

【実績】救急医療講演会(日本海総合病院)

開催日	研修内容等	参加人数
令和元年 12 月 5 日	「脳梗塞急性期 血栓回収療法の実際と地域連携」 鶴岡市立庄内病院 副院長 兼 脳神経外科主任医長 佐藤 和彦 氏	106 名

- c 一般社団法人酒田地区医師会十全堂との連携の継続により、平日夜間救急診療体制を維持し、救命救急センターの機能強化に努めた。

【実績】酒田地区医師会診療支援による延べ患者数

区 分	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
小児科	585 名	436 名	300 名	239 名
その他	1,081 名	824 名	627 名	482 名

(イ) がん医療(日本海総合病院)

- a 手術、放射線治療及び化学療法を効果的に組み合わせた集学的治療を提供し、カンサーボードを定期的で開催した。

【実績】手術、放射線療法、外来化学療法の件数

区 分	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
手術	1,093 件	1,140 件	1,173 件	1,159 件
放射線療法	7,931 件	7,438 件	6,594 件	5,434 件
外来化学療法	4,167 件	5,122 件	5,749 件	6,252 件

【実績】カンサーボード回数

平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
14 回	23 回	24 回

- b 高精度放射線治療装置を導入し、令和元年10月から治療装置の運用を開始している。

- c 「医療・福祉センター」に、専門的な知識を有する医療従事者（がん相談員）を配置し、より適切で効果的ながん医療を提供に努めている。

【実績】がん相談件数

平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
1,142件	1,183件	1,220件	1,691件

- d 早期に適切な緩和ケアを提供するため、緩和ケアセンターを設置し、がん診療サポートチームを中心に、緩和ケア医療の充実を図っている。

【実績】緩和ケア件数

区 分	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
病棟回診	299 名	351 名	370 名	410 名
緩和ケア外来	135 名	186 名	151 名	223 名

【実績】緩和ケアスクリーニング実施件数

区 分	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
入院	3,632 件	3,833 件	3,291 件	3,962 件
外来	444 件	561 件	449 件	447 件

【実績】緩和ケア研修会

実施日	受講医師数
令和元年 11 月 23 日	105 名

- e 院内がん登録及び地域がん登録を実施した。

【実績】がん登録件数 ※平成29年度から地域がん登録から全国がん登録に変更

区 分	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
院内がん登録	1,709件	1,761件	1,978件	1,858件
全国がん登録	1,661件	1,778件	2,007件	1,876件

(ウ)脳卒中・急性心筋梗塞(日本海総合病院)

- a 高度専門的な治療を速やかに行い、機能回復のため早期にリハビリテーションを開始に努めている。また、継続して休日のリハビリテーションを提供している。

【実績】疾患別リハビリテーション実施状況(日本海総合病院)

区 分	平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度		令和元年度	
	実患者数	回数	実患者数	回数	実患者数	回数	実患者数	回数
脳血管疾患	772 名	42,652 回	756 名	53,943 回	790 名	51,086 回	883 名	48,822 回
心大血管	752 名	19,051 回	670 名	18,139 回	772 名	18,487 回	827 名	17,010 回

【実績】休日のリハビリテーション実施状況(日本海総合病院)※H28年10月～休日の脳血管リハ開始

区 分	平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度		令和元年度	
	実患者数	回数	実患者数	回数	実患者数	回数	実患者数	回数
脳血管疾患	330 名	1,493 回	622 名	3,387 回	684 名	6,218 回	746 名	6,205 回
心大血管	494 名	1,357 回	555 名	2,162 回	603 名	2,046 回	543 名	1,769 回

【実績】脳卒中t-PA実施件数

平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
29 件	26 件	20 件	24 件

- b 急性心筋梗塞の救急搬送患者に対して、医師や看護師等が連携し、治療及び入院体制を整え、速やかにカテーテル治療を行い、「Door to balloon time」90分以内の実践に努めた。

【実績】急性心筋梗塞に対する経皮的冠動脈ステント留置術件数

平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
58 件	69 件	74 件	60 件

※急性心筋梗塞、不安定狭心症に対するもの

【実績】12誘導心電図伝送件数

平成 30 年度	令和元年度
53 件	281 件

※平成31年2月開始

(エ)糖尿病(日本海総合病院)

医師、看護師、管理栄養士等が協働し、治療や生活習慣改善のため、糖尿病教室等の患者教育・指導を行った。

【実績】糖尿病教室

区 分	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
開催回数	19 回	15 回	15 回	19 回
参加人数	69 名	44 名	43 名	51 回

【実績】糖尿病透析予防指導の実患者数、指導回数

区分	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
実患者数	6 名	8 名	6 名	5 名
指導回数	19 回	19 回	17 回	11 名

【実績】教育入院患者数

平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
64 名	68 名	84 名	69 名

【実績】個別栄養指導件数

区 分	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
入院	253 件	257 件	332 件	296 名
外来	296 件	350 件	342 件	402 名
合計	549 件	607 件	664 件	698 名

(オ)精神疾患(日本海総合病院)

地域の精神科病院等との役割分担及び連携を図り、電気痙攣療法等の高度専門的な医療を提供している。

【実績】精神科電気痙攣療法の実施件数

平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
109 件	152 件	78 件	99 件

(カ)小児・周産期医療(日本海総合病院)

a 二次周産期医療機関として、他の医療機関との機能分担及び連携を図り、ハイリスク分娩への対応、母体搬送及び新生児搬送の受け入れを行っている。

【実績】母体・新生児救急受入れ患者数等状況

区 分	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
母体	19 名	10 名	17 名	14 名
新生児	4 名	5 名	4 名	3 名
緊急帝王切開術	26 件	23 件	38 件	51 件

b 産科及び小児科の専門医の充実した体制により、地域住民が安心して出産できる環境を提供している。また、三次周産期医療機関である山形県立中央病院及び鶴岡市立荘内病院との連携を図った。

【実績】母体・新生児の救急搬送患者数

区 分	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
母体	14 名	15 名	8 名	14 名
新生児	2 名	4 名	1 名	2 名

c 働きながらも無理なく妊婦健診が受けられるように、夕方妊婦健診を実施した。

【実績】夕方診療(妊婦健診)患者数

区 分	平成 30 年度	令和元年度
実患者数	45 名	41 名
延患者数	110 名	105 名

(キ)回復期リハビリテーション(日本海酒田リハビリテーション病院)

脳血管疾患や大腿骨頸部骨折等により障がいが生じた患者のADLを改善し、早期に在宅療養又は社会復帰ができるよう、言語聴覚士の増員や、休日におけるリハビリテーションの実施などによりリハビリテーションを提供した。

【実績】疾患別リハビリテーション実施状況

区 分	平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度		令和元年度	
	実患者数	回数	実患者数	回数	実患者数	回数	実患者数	回数
脳血管疾患	258 名	82,014 回	224 名	91,890 回	230 名	91,890 回	259 名	83,432 回
運動器	183 名	44,051 回	207 名	60,268 回	222 名	60,268 回	212 名	53,809 回

【実績】理学療法士等補充状況

区 分	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
理学療法士	3 名	2 名	2 名	-
作業療法士	3 名	3 名	3 名	-
言語聴覚士	-	-	1 名	1 名

(ク)在宅医療支援及び療養支援

- a 日本海総合病院では、退院後、在宅療養へ患者が円滑に移行し、切れ目なくサービスを受けることができるよう、地域連携室及び医療福祉相談室において、地域の介護・福祉・医療機関との連携を図りながら、患者との退院調整業務を行っている。

【実績】退院調整件数(日本海総合病院)

区 分	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
他病院	969 件	946 件	996 件	1,189 件
在宅	13,878 件	14,506 件	14,337 件	13,684 件
介護老人保健施設	134 件	82 件	109 件	83 件
介護老人福祉施設	84 件	139 件	144 件	189 件
ショートステイ	137 件	103 件	87 件	97 件
有料老人ホーム	222 件	226 件	246 件	259 件
その他	118 件	99 件	98 件	99 件
合計	15,542 件	16,101 件	16,017 件	15,600 件

※平成 28 年度から各病棟に専任の退院支援職員を配置

- b 在宅患者が安心して地域で療養ができるよう、「大腿骨近位部骨折地域連携パス」及び「脳卒中地域連携パス」の運用により、関連施設や関連機関との診療情報の共有及び評価を行うなど連携を図り支援した。

【実績】地域連携クリニカルパス適用件数

区 分	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
肺がん	-	-	-	-
大腸がん	11 件	6 件	18 件	7 件
肝がん	-	-	-	-
乳がん	16 件	9 件	8 件	13 件
胃がん	19 件	10 件	13 件	13 件
大腿骨頸部骨折	128 件	105 件	117 件	120 件
脳卒中	195 件	149 件	159 件	218 件
心臓リハビリテーション	116 件	108 件	150 件	169 件
前立腺がん	65 件	24 件	32 件	9 件

【実績】地域連携診療計画加算算定件数(日本海総合病院)

平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
295 件	248 件	276 件	336 件

c 日本海酒田リハビリテーション病院は、新たに訪問リハビリテーションを開始し切れ目ないリハビリテーションの提供を行った。

d 日本海酒田リハビリテーション病院は、在宅医療を行っている診療所等と連携を図り、入院治療が必要となったの患者の受け入れを行った。

【実績】診療所等からの入院患者の受入れ

平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
22 名	23 名	14 名	9 名

(ケ) 一次医療とプライマリ・ケアの提供、充実 (日本海八幡クリニック等診療所)

日本海八幡クリニックは、平日延長診療及び土曜診療を行い、松山診療所、地見興屋診療所では、訪問診療を、飛島診療所では、日本海総合病院の医師による出張診療と遠隔診療を行った。

イ 高度医療機器の計画的な更新・整備(日本海総合病院)

(ア) 高度専門医療等の充実のため、総合医療情報システム(電子カルテ)やX線透視診断装置(デジタルX線テレビシステム)等の更新を行った。

(イ) 高度医療機器は、装置の稼働率や収支の予測を行い更新した。

ウ 災害時や健康危機における医療協力(日本海総合病院)

(ア) 台風 19 号(令和元年 10 月)による大規模な浸水被害発生に伴い、宮城県柴田郡大河原町へDMATを派遣し、避難所等での支援活動を行った。

(イ) 庄内SCU(航空搬送拠点臨時医療施設)の運営協力として、山形県所有の庄内SCU医療用資機材を、日本海総合病院で保管し、点検等を実施し緊急時に備えた。

(ウ) 災害時に必要な医療物資等及び患者、職員の食糧備蓄の補充を行い、優先納入契約、飲料水の提供に関する協定を継続するなど、災害時医療体制の充実に努めた。

【実績】補充した主な食糧備蓄

購入内容	区分	数量
主食・汁物・おかず・飲料水・補助食品	職員用	8,387 食分
	患者用	8,387 食分

(エ) 周辺地域で災害等が発生した場合に備え、災害医療研修及び訓練を実施した。

【実績】災害医療研修及び訓練(日本海総合病院)

実施日	内容	参加人数
令和元年 5 月 15 日	(災害医療研修会) 災害医療の基礎とトリアージ	131 名
令和元年 6 月 26 日	(災害医療研修会) 模擬患者を使ったトリアージ研修会 協力 酒田地区広域行政組合消防本部	119 名 (うち院外 20 名)
令和元年 9 月 28 日	(災害対応机上訓練) 机上での災害対応訓練の流れ	153 名
令和 2 年 2 月 13 日	(災害医療研修会) 災害に対する基本的な知識について ～現場活動編～	142 名 (うち院外 2 名)

(オ) 新たな感染症や薬物・食中毒等の健康危機事象が発生した際に、関係機関との緊密な連携のもと迅速な対応ができるよう、山形県主催の新型インフルエンザ等感染症発生時の情報伝達訓練に参加した。

エ 政策医療の実施(日本海総合病院)

(ア) 庄内二次医療圏の中核的な医療機関として、当地域の民間の医療機関では導入が困難である、高精度放射線治療装置 (IMRT) を整備した。

(イ) 第二種感染症指定医療機関として、2 類感染症患者の入院を受入れた。

・ 2 類感染症患者入院診療加算算定：延べ患者数 359 名

新型インフルエンザ等感染症発生時に入院患者受入体制を確保し、適切な医療を提供するため、新たに人工呼吸器 2 台、簡易陰圧装置 1 台、簡易ベッド 1 台を整備した。

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、帰国者・接触者外来を設置し、疑い患者 42 名の診療を行い、うち 39 名に対して PCR 検査の検体採取を実施した。また、院内感染拡大防止のため、面会制限等の対応を行った。

外来診療においては、全外来患者を対象に新型コロナウイルス感染症に関する問診の実施と慢性疾患等で定期的に通院している患者に対して電話等による診療及び処方箋の発行を実施した。

(ウ) 認知症疾患患者の専門医療相談、鑑別診断等を行っている。

【実績】相談件数

区分	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
新規相談件数	502 件	554 件	478 件	472 件
継続相談件数	342 件	340 件	293 件	225 件

(エ) へき地医療拠点病院として地域住民の医療の確保に努め、飛島診療所においては、医師の出張診療及び遠隔診療を行っている。

【実績】 飛島診療所出張診療 回数（4月～10月）

平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
21回	16回	16回	16回

(オ) 地域において必要性の高い救急医療、周産期医療、小児医療を担う医療機関として、各分野において新たに専門医の資格を取得するなど専門医の確保に努めた。

【実績】 新たな専門医資格取得状況

区 分	人数
日本内科学会総合内科専門医	各1名
日本消化管学会胃腸科専門医	
日本循環器学会循環器専門医	
日本総合病院精神医学会一般病院連携精神医学専門医	
日本救急医学会救急科専門医	
日本外科学会外科専門医	
呼吸器外科専門医合同委員会呼吸器外科専門医	
日本心臓血管麻酔学会心臓血管麻酔専門医	2名
日本耳鼻咽喉科学会耳鼻咽喉科専門医	

(カ) 脳死下臓器移植について、提供施設として山形県臓器移植推進機構及び院内コーディネーターによるシミュレーションを実施した。

【実績】 シミュレーション（日本海総合病院）

実施日	研修内容等	参加人数
令和2年2月19日	「脳死下臓器提供の流れシミュレーション」 座長 脳神経外科 赤坂雅弘診療部長	17名

(2) 医療スタッフの確保及び資質向上

ア 医療人材の確保・育成

(ア) 高度専門医療等の安定的な提供を図るため、積極的な研修、学会等への参加など、専門資格を有する医療従事者の確保・育成に努めた。

【実績】 専門研修等への派遣状況

区 分	人 数
がんゲノム医療従事者養成研修会	認定看護師3名、検査技師2名、看護師2名、 遺伝カウンセラー1名
アブレーション研修	医師2名
ダヴィンチ技術研修	医師4名、看護師4名、臨床工学技士2名
マンモグラフィ更新技術講習会	放射線技師1名
心臓リハビリテーション指導士講習会	検査技師2名
乳房超音波技師講習会	検査技師2名

(イ) 専門医制度の基幹施設（内科、外科、産婦人科）として、内科専攻医 2 名、外科専攻医 1 名、産婦人科専攻医 1 名を採用し、専門研修プログラムの管理運営を行った。

(ウ) 日本海総合病院は、臨床研修医 31 名、レジデント 36 名の受け入れを行った。

【実績】臨床研修医及びレジデント受入れ人数

平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
53 名	61 名	62 名	67 名

(エ) 日本海総合病院は、地方独立行政法人那覇市立病院の 2 年次臨床研修医 1 名と日本海総合病院 2 年次臨床研修医 9 名の交換地域医療研修を実施した。

【実績】交換地域医療研修

区 分	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
日本海総合病院	4 名	8 名	9 名	7 名
那覇市立病院	1 名	2 名	1 名	3 名

(オ) 基本研修に加え、専門性の向上を図るため各部門独自による専門能力を高める研修を行うなど、教育・研修体制の充実及び自己研鑽・研究のサポート体制の充実に努めた。

(カ) 看護師等修学資金貸与を継続して行い、新規貸与者 5 名を含む計 16 名に修学資金の貸与を実施した。また、貸与終了者 8 名が当機構職員として入職した。

【実績】修学資金の貸与

区 分	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
貸与者	14 名	16 名	17 名	16 名
入職者	2 名	2 名	6 名	8 名

(キ) 看護師の特定行為研修に派遣し 2 名が研修を修了した。

イ 事務職員の確保と専門性の向上

(ア) 診療情報管理士等の専門資格の取得及び研修参加等により、事務職員の資質向上に努めた。

(イ) 医療職とともにメディエーション研修に参加し専門的知識を高め、また、新規採用事務職員を対象に業務遂行能力向上を目的とした OJT 研修を実施した。

ウ 職員の勤務環境の改善

(ア) 職員のワーク・ライフ・バランスの確保のため、また、意欲的かつ安心して業務に従事できる環境づくりとして、育児短時間勤務、病児・病後児保育、終夜保育などの活用を推進し、働きやすい職場作りに努めた。

【実績】利用者数（延人数）

区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
育児短時間勤務	1名	1名	0名	0名
病児・病後児保育(職員延利用者)	90名	105名	92名	95名
終夜保育 実人数	4名	4名	28名	85名

(イ) 家族の介護や子育て等を行う医師の支援として、女性医師に対するベビーシッター等利用料の助成を行った。また、医師のキャリアパスに配慮し、短時間正職員制度など多様な勤務形態を継続して実施した。

【実績】医師短時間職員制度等の利用状況

区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
医師短時間	1名	2名	3名	3名
育児部分休業	-	1名	1名	1名
ベビーシッター等助成金	-	1名	2名	2名
ハウスクリーニング等助成金	-	-	-	2名

(ウ) 病棟及び外来に医師事務作業補助者（医事クラーク）を配置し、医師をはじめとする医療従事者の負担軽減を図っている。

【実績】医事クラークの配置数

平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
64名	64名	66名	69名

(3) 医療サービスの効果的な提供

ア 地域連携の推進

(ア) 他の医療機関との連携の推進により、地域医療支援病院の指定要件である紹介率50%、逆紹介率70%以上を達成した。

【実績】年度別 紹介率、逆紹介率

区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
紹介率	64.4%	65.5%	68.0%	68.5%
逆紹介率	97.2%	100.5%	101.5%	100.6%

(イ) 日本海総合病院は、山形県立こころの医療センター及び医療法人山容会山容病院との協定等に基づく受入体制を整えている。

(ウ) ICTの有効な活用による、地域及び医療圏を超えた広域連携の推進に努めた。また、秋田県と山形県による広域連携に関する協定が締結された。

(エ) 退院時共同指導や介護支援連携指導等により、介護・福祉機関との積極的な情報交換に取り組み、医療から介護・福祉へと切れ目のないサービスの提供に努めている。

【実績】指導件数（日本海総合病院）

区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
退院時共同指導	90件	84件	138件	194件
介護支援連携指導	1,077件	909件	1,068件	1,237件

(オ) 鶴岡市立荘内病院の耳鼻咽喉・頭頸部外科、心臓血管外科及び呼吸器外科について、日本海総合病院の医師による診療支援を行い地域医療の確保に努めた。

(カ) 平成 30 年度に全国で初めて地域フォーミュラリを実施し、令和元年度は新たに 4 薬剤を選定、全部で 8 種類の医薬品で進めている。推奨医薬品の選定基準を見直し、公平性、透明性、明示性を担保しながら、主に安定供給、品質、価格の面から厳密に評価分析を実施した。北庄内地域の関係機関で地域フォーミュラリを推進し、この地域で 1 ヶ月あたり約 9 百万円の医療費削減効果があった。

イ 診療情報の共有化

(ア) 服薬管理を充実させるため「お薬情報共有システム」と「ちょうかいネット」において連携を行い、情報の共有化の推進を図った。

ちょうかいネット登録患者数及び施設数については、共に増加している。

【実績】登録患者数等

区分	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
登録患者数	26,619 名	32,401 名	37,981 名	43,789 名
開示施設数	6 施設	7 施設	7 施設	8 施設
閲覧施設数	171 施設	186 施設	198 施設	238 施設

(イ) 日本海総合病院は、総務省の「医療等分野のネットワーク利活用モデル構築にかかる調査研究」に参加し、マイナンバーカード及び JAHIS 院外処方箋二次元シンボル記録条件規約に基づいた QR コード情報による処方内容確認について実証実験を行った。

ウ 地域連携クリニカルパスの活用(日本海総合病院)

患者への負担軽減及び他の医療機関との機能分担を図りながら、地域連携クリニカルパスを継続して活用した。

【実績】地域連携クリニカルパス適用件数

区分	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
肺がん	0 件	0 件	0 件	-
大腸がん	11 件	6 件	18 件	7 件
肝がん	0 件	0 件	0 件	-
乳がん	16 件	9 件	8 件	13 件
胃がん	19 件	10 件	13 件	13 件
大腿骨頸部骨折	128 件	105 件	117 件	120 件
脳卒中	195 件	149 件	159 件	218 件
心臓リハビリ	116 件	108 件	150 件	169 件
前立腺がん	65 件	24 件	32 件	9 件

【実績】地域連携診療計画加算 (日本海総合病院)

区分	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
算定件数	295 件	248 件	276 件	336 件

(4) 教育研修事業の充実

ア 庄内地域における医療水準の向上(日本海総合病院)

(ア) 臨床研修医及びレジデントの受入れ、並びに山形大学からのスチューデントドクター及び東北大学からの地域医療実習生を継続して受入れを行い、質の高い医療従事者の育成に努めた。

【実績】 臨床研修医等の受入れ状況

区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
臨床研修医	28名	34名	29名	31名
レジデント	26名	27名	33名	36名
スチューデントドクター(山形大学)	75名	70名	85名	85名
臨床医学修練生(東北大学)	1名	5名	2名	1名
地域医療実習生(東北大学)	5名	6名	0名	0名

(イ) 酒田市立酒田看護専門学校の看護教員1名を、教務主任養成講習会に参加させるなど技能向上等に努めた。

(ウ) 救急救命士養成課程の臨床実習、就業前研修、再教育実習及び山形県消防学校救急科の病院実習を実施し、計47名の実習生の受入れを行った。

【実績】 実習生受入人数

区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
臨床実習	3名	3名	3名	2名
就業前研修	5名	1名	1名	3名
再教育実習	41名	39名	38名	37名
病院実習	15名	17名	10名	5名
計	64名	60名	52名	47名

イ 住民意識の啓発活動(日本海総合病院)

(ア) 住民対象のセミナーとして、生涯学習施設「里仁館」で開催された健康講座に、講師として職員を派遣するとともに、広報紙「あきほ」を年4回発行し、医療や健康に関する情報発信を行った。

【実績】 健康講座

開催日	題名	講師
令和元年5月22日(水)	転倒予防とリハビリテーション	作業療法士
令和元年6月5日(水)	一般外科の救急疾患と外科医の1日	医師
令和元年7月10日(水)	耳鼻咽喉科の病気について	医師

(イ) 住民の健康意識向上、がんに関する知識、情報の普及啓発を目的とし、地域住民を対象に市民公開講座を開催した。

【実績】がん拠点病院公開市民講座

開催日	研修内容等	参加人数
令和元年7月28日	「がんを通して学ぶ、現代の死生観」 講師：保坂サイコオンコロジー・クリニック院長 聖路加国際病院 診療教育アドバイザー 保坂 隆 氏	151名

3 患者・住民の満足度の向上

- (1) 日本海総合病院は、患者やその家族のニーズを把握するためアンケート調査を実施し、また、接遇に関する外部調査を行い、その結果を踏まえて接遇向上研修会を開催するなど満足度の向上に努めた。
- (2) 入退院支援センターの運用を開始し、入院及び退院手続き等の改善を図った。また、患者向けの図書コーナー、休憩スペースの改善や手術時の家族の待機時の改善など、院内環境等の向上に努めた。
- (3) 各病院及び診療所の役割等を、ホームページ、病院広報紙「あきほ」及び市広報等を活用してPRに努めた。

4 法令等の遵守と情報公開の推進

- (1) 職員研修において、法人の基本理念、倫理綱領及び法令順守等の周知徹底に取り組んだ。
- (2) 各病院及び診療所の経営状況を病院概要の発行及びホームページにおいて公表した。
- (3) カルテ等医療情報の情報開示については、山形県情報公開条例及び個人情報保護条例の適用のもとに、県の機関に準じて行っている。

【実績】診療情報提供申出件数（日本海総合病院）

平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
60件	56件	61件	40件

- (4) 適切な情報管理や情報セキュリティ対策の強化を図るため、「ちょうかいネット」利用者等を対象に資料と基本的な情報セキュリティについて解説等を行った。また、新規採用職員研修においてセキュリティ教育を実施した。

【実績】ちょうかいネットセキュリティ研修会実施状況

対象者	参加状況
新規に参加した介護事業者等	13施設・17名

5 医療安全対策の充実・強化

- (1) 医療安全対策の充実・強化を図るため、医療安全研修会を開催した。また、医療安全管理者を中心に、各部署の医療安全推進者と連携しながら、インシデントの事例共有、分析、改善策について検討し、医療安全対策の質の向上に努めた。

【実績】医療安全研修会（日本海総合病院）

開催日	研修内容等	参加人数
令和元年7月19日	第1回医療安全全体研修会 『モニターとの上手なつきあい方 ～モニターの基本的な知識を学ぶ～』 ME室 主任臨床工学技士 本間 功一 臨床工学技士 渡邊 大和	140名
平成元年9月4日	第2回医療安全全体研修会 『医原性末梢神経損傷～対策と対応～』 日本海総合病院 整形外科部長 佐藤 大祐	186名
平成元年11月18日	第3回医療安全全体研修会 『診療録・看護記録の重要性～裁判事例からの学び～』 SOMPO リスクマネジメント株式会社 医療介護コンサルティング部 上級コンサルタント 山崎 堅司 先生	260名

院内感染対策の充実・強化を図るため、院内感染対策委員会を中心に以下のような研修会を開催した。また、ICTを中心として、感染対策地域合同カンファレンスを年4回開催し、他の医療機関や保健所と感染症発生状況や対策について情報収集を行った。

【実績】院内感染対策研修会（日本海総合病院）

開催日	研修内容等	参加人数
令和元年8月23日	第1回院内感染対策研修会 「抗菌薬をどう使うか？使わないか？ ～ガイドラインを参考に考える～」 講師：東北文化学園大学 特任教授 渡辺彰 氏	259名
令和2年2月21日	第2回院内感染対策研修会 「結核について」 講師：山形病院 呼吸器内科医長 寺下 京子 氏	195名

(2) 医療安全マニュアル及び院内感染対策マニュアルについて、必要に応じて院内感染対策マニュアルの改訂を行い、速やかに院内周知を行った。

また、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、新型コロナウイルス感染症に関するマニュアルを作成し、対策の徹底を図った。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

1 組織マネジメントの強化

運営委員会、診療部代表者会議、経営会議及び業務改善委員会等を定期的で開催し、組織マネジメントに努めた。

2 診療体制の強化、人員配置の弾力的運用

(1) 医療需要の変化等に迅速かつ的確に対応するため、定期的な人事異動により適材適所の配置に努めた。

(2) TQM センターを組織化し専門的職種を活用し業務の効率化に努めた。

医師短時間正職員制度を利用することで医師がキャリアを中断することなく安心して意欲的に勤務できるよう努めた。

3 経営基盤の安定化

(1) 収入の確保

ア 令和元年度における、患者の動向等は次のとおりであった。

【患者動向等】

区 分	日本海総合病院			日本海酒田リハ病院			診療所		
	H30	R1	増減	H30	R1	増減	H30	R1	増減
延入院患者数(人)	190,615	186,991	△3,624	36,933	34,696	△2,237	-	-	-
新入院患者数(人)	16,665	16,278	△387	626	690	64	-	-	-
入院/1日(人)	522.2	510.9	△11.3	101.2	94.8	△6.4	-	-	-
病床利用率(%)	82.9	81.1	△1.8	88.8	83.2	△5.6	-	-	-
病床回転率(%)	266.8	265.2	△1.6	51.5	60.9	9.4	-	-	-
平均在院日数(日)	11.4	11.5	0.1	59.1	50.1	△9.0	-	-	-
延外来患者数(人)	344,090	342,371	△1,719	357	243	△114	21,933	21,310	△623
新外来患者数(人)	27,914	28,225	311	36	16	△20	1,284	1,271	△13
外来/1日(人)	1,410.2	1,420.6	10.4	1.5	1.0	△0.5	79.7	81.7	2.0
延通所リハ利用者数(人)	-	-	-	3,871	4,091	220	-	-	-
通所リハ/1日(人)	-	-	-	15.9	17.0	1.2	-	-	-
延訪問看護利用者数(人)	-	-	-	-	-	-	2,737	3,842	1,105
訪問看護/1日(人)	-	-	-	-	-	-	8.9	12.1	3.2
病床数	630	630	0	114	114	0	-	-	-

【法人計】

区 分	H30	R1	増減	区 分	H30	R1	増減
延入院患者数(人)	227,548	221,687	△5,861	延外来患者数(人)	366,380	363,924	△2,456
新入院患者数(人)	17,291	16,968	△323	新外来患者数(人)	29,234	29,512	278
入院/1日(人)	623.4	605.7	△17.7	外来/1日(人)	1,491.4	1,503.3	11.9
病床利用率(%)	-	-	-	延通所リハ利用者数(人)	3,871	4,091	220
病床回転率(%)	-	-	-	通所リハ/1日(人)	15.9	17.0	1.1
平均在院日数(日)	-	-	-	延訪問看護利用者数(人)	2,737	3,842	1,105
				訪問看護/1日(人)	8.9	12.1	3.2

【患者1人1日当たりの診療単価（税抜）】単位：円

区 分	日本海総合病院			日本海酒田リハ病院			日本海八幡クリニック等診療所		
	H30	R1	増減	H30	R1	増減	H30	R1	増減
入院	68,587	70,955	2,368	29,212	29,514	302	-	-	-
外来	15,869	16,904	1,035	6,363	7,662	1,299	7,591	7,431	△160

【目標値】

区 分	1日あたり患者数		病床 利用率	平均在院 日数	1日あたり診療単価	
	入院	外来			入院	外来
日本海総合病院	516人	1,300人	80%	12.0日	68,000円	15,000円
日本海酒田リハビリ病院	102人	3人	90%	-	27,000円	3,000円
日本海八幡クリニック等診療所	-	80人	-	-	-	8,000円

イ 診療報酬点検委員会等において診療報酬請求の請求漏れや査定による減点の防止等に努めている。

ウ 診療報酬改定等を踏まえ施設基準の取得や見直し等を随時行っている。

エ 患者の支払いに関する情報をもとに、ソーシャルワーカーの介入等により各種公的制度の活用を図っている。未収金が発生した際は、督促・催告状の発行に加え、分割納入や集金での対応や弁護士法人への委託による回収に努めた。

(2)費用の抑制

職員給与費比率、材料費比率等の目標値を次のように定め、費用の抑制に努めた。

また、後発医薬品の数量シェアについては、国による目標値の達成に努めた。

【営業収益に占める主な費用の比率】

区 分	職員給与費	材料費	うち薬品費
日本海総合病院 (法人管理部を含む。)	42.7%	29.3%	16.4%
日本海酒田リハビリ病院	73.7%	2.0%	1.1%
日本海八幡クリニック等診療所	70.9%	16.4%	14.7%
病院機構全体	44.6%	27.8%	15.6%

【営業収益に占める主な費用の比率の目標値】

区 分	職員給与費	材料費	うち薬品費
日本海総合病院 (法人管理部を含む。)	46.4%以内※	28.0%以内※	14.6%以内※
日本海酒田リハビリ病院	70%以内	4%以内	3%以内

※総務省が公表している「平成29年度地方公営企業決算状況調査」における全国500床以上の黒字公立病院の平均値

第3 予算（人件費の見積りを含む。）、収支及び資金

収支の実績

収支は次のとおりであった。

【営業収支比率及び経常収支比率】

区 分	営業収支比率	経常収支比率
日本海総合病院 (法人管理部を含む。)	103.7%	102.8%
日本海酒田リハビリ病院	84.9%	90.0%
日本海八幡クリニック等診療所	78.2%	118.7%
病院機構全体	102.2%	102.2%

【営業収支比率及び経常収支比率の目標値】

区 分	営業収支比率	経常収支比率
日本海総合病院 (法人管理部を含む。)	100%以上	100%以上
日本海酒田リハビリ病院	80%以上	80%以上
日本海八幡クリニック等診療所	55%以上	100%以上
病院機構全体	100%以上	100%以上

1 予算及び決算

(単位：百万円)

区分	予算額 (当 初)	決算額	差額 (決算 - 予算)
収 入	24,171	24,931	760
営業収益	20,761	21,529	768
医業収入	20,151	20,913	762
運営費負担金	610	616	6
営業外収益	1,202	1,207	5
運営費負担金等	937	970	33
その他	265	237	△28
資本収入	2,199	2,185	△14
金銭出資の受入	827	827	0
長期借入金	1,360	1,346	△14
その他	12	12	0
その他の収入	9	10	1

(単位：百万円)

区分	予算額 (当 初)	決算額	差額 (決算 - 予算)
支 出	23,912	23,989	77
営業費用	19,918	20,097	179
医業費用	19,714	19,906	192
給与費	10,000	9,966	△34
材料費	6,049	6,513	464
経費	3,532	3,332	△200
研究研修費	133	94	△39
一般管理費	204	191	△13
営業外費用	225	222	△3
資本支出	3,769	3,669	△100
建設改良費	2,314	2,214	△100
長期借入金返還金	1,444	1,444	0
修学資金貸付	10	10	0
その他の費用	1	1	0

※項目毎に端数処理をしているため、合計額が一致しない項目がある。

2 収支計画

(単位：百万円)

区 分	予算額 (当初)	決算額	差額 (決算 - 予算)
収 入	21,948	22,718	770
営業収益	20,748	21,504	756
医業収益	20,115	20,878	763
運営費負担金収益	610	616	6
資産見返補助金等戻入	23	9	△14
営業外収益	1,191	1,196	5
運営費負担金収益	937	970	33
その他医業外収益	254	226	△28
その他の収入	9	18	9
支 出	21,909	22,279	370
営業費用	20,697	21,038	341
医業費用	20,509	20,861	352
一般管理費	188	177	△11
営業外費用	1,170	1,172	2
その他の費用	42	69	27
純 利 益	39	439	400

3 資金計画

(単位：百万円)

区 分	予算額 (当初)	決算額	差額 (決算 - 予算)
資金収入	42,037	36,677	△5,360
業務活動による収入	21,980	22,598	618
診療業務による収入	20,151	20,794	643
運営費負担金による収入	1,547	1,586	39
補助金等収入	107	66	△41
その他の業務活動による収入	175	152	△23
投資活動による収入	11,803	5,318	△6,485
有価証券の売却による収入	8,500	2,500	△6,000
補助金等収入	0	15	15
定期預金の払出による収入	3,300	2,800	△500
その他の投資活動による収入	3	3	0
財務活動による収入	2,187	2,173	△14
長期借入による収入	1,360	1,346	△14
金銭出資の受入による収入	827	827	0
前年度からの繰越金	6,067	6,588	521
資金支出	35,713	30,790	△4,923
業務活動による支出	20,143	20,494	351
給与費支出	10,077	10,134	57
材料費支出	6,050	6,419	369
その他の業務活動による支出	4,016	3,941	△75
投資活動による支出	14,125	8,851	△5,274
有形固定資産の取得による支出	2,314	2,386	72
無形固定資産の取得による支出	0	757	757
有価証券の取得による支出	10,000	2,798	△7,202
定期預金の預入による支出	1,800	2,900	1,100
その他の投資活動による支出	11	10	△1
財務活動による支出	1,445	1,445	0
長期借入の返済による支出	817	817	0
移行前地方債償還債務等の償還による支出	628	628	0
翌年度への繰越金	6,324	5,887	△437

第4 短期借入金の限度額

短期借入金の実績なし

第5 剰余金の使途

決算剰余金については、建設改良積立金に充当し将来の施設整備及び医療機器の整備に備えた。

第6 料金に関する事項

- (1) 地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構使用料及び手数料規程に基づき使用料の徴収を行った。

第7 その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項

1 人事に関する事項

- (1) 職員採用を計画的に実施し医療従事者の確保に努めた。

【実績】採用者人数（令和元年度採用試験）

区 分	人数	採用年月
看護師	1名	令和元年8月
社会福祉士	1名	
事務職	1名	令和元年11月
臨床工学技士	1名	令和2年2月
薬剤師	2名	令和2年4月
看護師	39名	
臨床検査技師	3名	
理学療法士	4名	
管理栄養士	1名	
歯科衛生士	1名	
事務職	4名	
計	58名	

- (2) 認定看護師や専門薬剤師等への手当支給など職員のモチベーションの向上を図り、看護師特定行為研修や、認定看護師資格の取得など人材育成に努めている。

【実績】認定看護師、専門薬剤師内訳

区 分	人 数
認定看護師数	21名
専門看護師数	1名
専門薬剤師数	7名

2 職員の就労環境の整備に関する事項

- (1) 認知症ケアチームやがんサージカルボードなどチーム医療の推進に努めている。

- (2) メンタルヘルス対策として、職員へのストレスチェック後の面接指導の実施や「職場環境改善に関する意見書」を所属部門に提出しメンタルヘルス対策の充実に努めた。
- (3) ハラスメント相談窓口による対応に努めた。
- (4) 院内保育所「あきほ保育園」では、24 時間保育（年末・年始除く）を実施した。また、病児・病後児保育事業を酒田市から継続して受託し、当該事業を活用し職員の就労環境の向上に努めた。

【実績】院内保育所「あきほ保育園」利用者数

平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
28 名	29 名	29 名	34 名

【実績】院内保育所「あきほ保育園」終夜利用者数

平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
4 名	4 名	28 名	85 名

3 医療機器・施設整備に関する事項(日本海総合病院)

- (1) 高度医療機器においては、費用対効果、地域の医療需要、他の機関との機能分担、医療技術の進展などを総合的に判断し更新及び整備を行った。
- (2) 建物診断の結果に基づき策定した中長期修繕計画に従い、緊急度が高い設備の修繕工事を以下のとおり行った。

【実績】主な修繕工事

工事名	契約額（千円）	概要
空調機ユニット更新工事(3 基)	48,400	耐用年数の超過及び塩害により劣化
ファンコイルユニット交換工事(100 台)	41,690	耐用年数の超過及び塩害により劣化
高圧電気設備更新工事（遮断器等）	68,941	耐用年数の超過

- (3) 高額な医療機器等の更新及び整備については、償還等の負担を十分に考慮し、中長期的な投資計画(整備計画)のもとに行った。

【医療機器・施設整備の計画】 (単位：百万円)

区 分	実 績	財 源
資本支出		
建設改良費	2,037	設立団体からの 長期借入金等
施設整備	486	
医療機器等	1,551	

- (4) 日本海八幡クリニック等診療所での医療機器及び施設の整備等はなかった。
- (5) 地域の医療ニーズに対応するため、外来部門に面談室を設けるなど診療提供体制の整備を行った。

4 積立金の使途

前期中期目標期間の繰越積立金は、施設の整備、医療機器の購入等に充てた。

5 その他法人の業務運営に関する事項

- (1) 酒田市、公益財団法人やまがた健康推進機構及び開業医等との連携のもと、がん検診をはじめ地域の検診実施体制の充実を図っている。

酒田市が実施している「内視鏡ドック」のうち、胸部 CT、上部内視鏡検査、下部内視鏡検査を担っている。また、酒田市へのふるさと納税の返礼品として、納税額に応じた 3 種類の人間ドックを実施している。

【実績】検診等

区 分	平成 30 年度	令和元年度
内視鏡ドック	97 件	93 件
PET/CT 検診	89 件	47 件

【実績】ふるさと納税

区 分	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
1 泊 2 日 (ドック)	2 名	0 名	0 件	1 件
2 泊 3 日 (ドック、PET)	2 名	0 名	0 件	0 件
PET/CT (半日)	10 名	1 名	2 件	2 件

- (2) 病児・病後児保育事業を酒田市から受託し、「庄内北部定住自立圏形成協定」により三川町、庄内町及び遊佐町に在住の乳幼児等も受け入れる体制を整え、日曜日、祝日、年末年始休業(12/29～1/3)を除き、継続して通年で事業を実施した。また、定員を 3 名から 9 名に増員し、事前に医療機関の診察を受けていない利用者の受診付添いサービス及び保育園等からの病児送迎サービスを実施した。

【実績】受診付添いサービス等利用者

区 分	利用者数
受診付添いサービス	6 名
病児送迎サービス	2 名